〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方
編集方針
会社情報
コーポレートミッション
新型コロナウイルス感染症への対応と影響
森永乳業のサステナビリティ
7つの重要取組課題
● 健康・栄養
● 環境
基本的な考え方
体制
KPI
環境リスクの認識
環境法規制の遵守
グループ全体への環境活動の拡大
環境マネジメントを推進する仕組み
環境負荷の全体像
気候変動
資源循環
水資源
環境配慮型容器包装の使用促進
生物多様性
● 人権
● 供給
● 次世代育成
● 人財育成
● コーポレート・ガバナンス

方針等
第三者保証
国連グローバル・コンパクト対照表
GRIスタンダード対照表

環境

基本的な考え方

省エネルギー、廃棄物削減に取り組みながら安全・安心な商品を製造し、サステナブルな社会づくりに貢献します。

森永乳業の商品は、乳をはじめ、コーヒー豆、茶葉、アロエなど、原材料の多くが自然の恵みである農産物からできています。これらの農産物を育んできた自然に感謝するとともに、これからも環境を守り続けていくことは、私たちが事業を継続していくために不可欠と考えています。
そのためには、気候変動への対応、食品ロスや産業廃棄物を削減する取り組み、用水をはじめとした資源の効率利用による使用抑制、プラスチック資源の循環を考慮した容器の利用、生物多様性に対する配慮が欠かせません。また、お取引先とも密にコミュニケーションを取りながら、自社だけではなく、サプライチェーン全体での取り組みとして、サステナブルな社会づくりに貢献してまいります。
現在、森永乳業の本社、研究所、首都圏支社、商品センター、直系工場（東日本市乳センター、西日本市乳センターを含む）および生産関係会社では、以下の環境方針に従い、ISO14001環境マネジメントシステムに基づいて活動しています。

REPORT ▶「環境方針」P.95参照

体制

KPIの進捗、確認、報告は年2回のサステナビリティ委員会（委員長：社長）にて行います。
また、「重要取組課題：環境」の責任者を関係本部の本部長が担い、KPI推進責任者を関係部署の部長が担い、PDCAサイクルを回していきます。
また、環境はISO14001環境マネジメントシステムに則り、社長およびサステナビリティ本部長を統括トップマネジメントとして各サイト／事業所に至るまでマネジメント体制を確立し、毎年3月にトップマネジメントへの報告を行っています。

ISO14001環境マネジメント体制

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方
編集方針
会社情報
コーポレートミッション
新型コロナウイルス感染症への対応と影響
森永乳業のサステナビリティ
7つの重要取組課題
● 健康・栄養
● 環境
基本的な考え方
体制
KPI
環境リスクの認識
環境法規制の遵守
グループ全体への環境活動の拡大
環境マネジメントを推進する仕組み
環境負荷の全体像
気候変動
資源循環
水資源
環境配慮型容器包装の使用促進
生物多様性
● 人権
● 供給
● 次世代育成
● 人財育成
● コーポレート・ガバナンス
方針等
第三者保証
国連グローバル・コンパクト対照表
GRIスタンダード対照表

KPI

2019年に発表した中期経営計画にて「ESGを重視した経営」を発信し、7つの重要課題のひとつである環境についてもKPIを設定しました。
森永乳業では、中期経営計画を発信する以前より、環境への貢献を目的に、「環境対策中期計画」を独自に策定し、環境を考慮した事業活動を進めてきました。
今後は、環境対策中期計画を中期経営計画のKPIに統合し、進捗を管理・公開していきます。

活動の方向性	KPI	KPI進捗状況の詳細
生産部門を中心としていた環境活動を、連結対象会社全部門に拡大	**ISO14001認証事業所：**2030年度までに連結対象の全事業所で取得	認証事業所数：34事業所（2021年3月31日時点）（▶P.39）
	2021年度までにグループ全体でスコープ1、スコープ2を把握	国内生産事業所のスコープ1、スコープ2について第三者保証を取得（▶P.43）
生産における環境負荷削減	**CO_2排出量原単位削減：**2021年度までに2013年度比8%削減 2030年度までに2013年度比20%削減 2050年度までに2013年度比80%削減	2020年度は2013年度比14.1%削減（▶P.42）
	食品廃棄物発生量原単位削減：2021年度までに2013年度比30%削減	2020年度は2013年度比27.1%削減（▶P.46）
	産業廃棄物排出量原単位削減：2021年度までに2013年度比33%削減	2020年度は2013年度比30.0%削減（▶P.46）
	埋立廃棄物量削減：2021年度までに年間排出量300t未満 2030年度までにゼロ	2020年度は年間排出量354t（▶P.46）
	用水使用量削減：2021年度までに年間使用量2013年度比9%削減	2020年度は2013年度比6.2%削減（▶P.48）
サプライチェーン全体の環境負荷削減	2021年度までにスコープ3の15中6カテゴリ算定	10カテゴリ算定済み。残り5カテゴリについても検討を行い、スコープ1および2に含めるもの1カテゴリ、本業との関連が低いもの4カテゴリに分類済み（▶P.43）
環境に配慮した容器包装の使用促進	**容器包装リサイクル法対象プラスチック容器包装の重量：**2013年度比10%減	2020年度は2013年度比15.4%削減（▶P.50）

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方
編集方針
会社情報
コーポレートミッション
新型コロナウイルス感染症への対応と影響
森永乳業のサステナビリティ
7つの重要取組課題
● 健康・栄養
● 環境
基本的な考え方
体制
KPI
環境リスクの認識
環境法規制の遵守
グループ全体への環境活動の拡大
環境マネジメントを推進する仕組み
環境負荷の全体像
気候変動
資源循環
水資源
環境配慮型容器包装の使用促進
生物多様性
● 人権
● 供給
● 次世代育成
● 人財育成
● コーポレート・ガバナンス
方針等
第三者保証
国連グローバル・コンパクト対照表
GRIスタンダード対照表

環境リスクの認識

森永乳業グループの事業は食品を基盤としていることもあり、地球温暖化の進行による農産物原料の入手のしやすさや、お客さまの嗜好の変化、台風等の気象災害等による生産・物流等への影響、規制の強化などさまざまな面で事業活動に影響があると考えています。
2019年度より環境方針に「事業活動が環境に与える影響だけでなく環境が当社の事業活動に与える影響を評価し対応します。」という一文を加え、環境が当社事業継続に与える影響の評価とその対策を進めていくこととしました。
2021年3月にTCFDへの賛同を表明し、対応した情報開示の実施に向け、検討を進めています。

環境法規制の遵守

排水処理やボイラーなど環境汚染の原因となる可能性のある設備については、設備毎に法令で定められた遵守すべき事項をまとめ、チェックリストにより法令遵守の確認をしています。また、これらの法令については改正情報を年1回確認するとともに、業界団体等を通じた情報をスムーズに獲得できる体制を整えています。
2020年度は環境関連法規制などに加えて、排水の水質/水量に関する罰金・処罰による支払いはありませんでした。

グループ全体への環境活動の拡大

環境マネジメントシステム
森永乳業グループでは、本社研究所をはじめ工場、グループ会社でISO14001：2015マルチサイトの認証を取得しています。

ISO14001：2015認証取得事業所（2021年3月31日時点）
認証登録範囲：牛乳、乳製品、アイスクリーム、飲料、その他の食品の製造、研究開発及び販売

- 本社
  本社（プラザビル）〒108-8384　東京都港区芝5-33-1
  本社（目黒ビル）〒153-8657　東京都目黒区目黒4-4-22
  本社（芝浦DFビル）〒108-0023　東京都港区芝浦3-13-8
- 研究情報センター 〒252-8583　神奈川県座間市東原5-1-83
- 首都圏支社 〒108-0075　東京都港区港南3-8-1
- 商品センター 〒222-0033　神奈川県横浜市港北区新横浜2-8-1
- 佐呂間工場 〒093-0504　北海道常呂郡佐呂間町字西富123
- 別海工場 〒088-2572　北海道野付郡別海町西春別清川町18
- 盛岡工場 〒020-0133　岩手県盛岡市青山2-3-14
- 福島工場 〒960-8154　福島県福島市伏拝字清水内5
- 利根工場 〒303-0043　茨城県常総市内守谷町4013-1
- 東京工場 〒124-8577　東京都葛飾区奥戸1-29-1
  （2021年3月生産終了）
- 東京多摩工場 〒207-0021　東京都東大和市立野4-515
- 大和工場 〒207-0021　東京都東大和市立野4-601
- 東日本市乳センター 〒207-0021　東京都東大和市立野4-540
- 装置開発センター（現在は生産技術センター）
  〒207-0021　東京都東大和市立野4-515
- 松本工場 〒390-0837　長野県松本市鎌田2-1-4
- 富士工場 〒418-0046　静岡県富士宮市中里東町639
- 中京工場 〒483-8256　愛知県江南市中奈良町一ツ目1

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方
編集方針
会社情報
コーポレートミッション
新型コロナウイルス感染症への対応と影響
森永乳業のサステナビリティ
7つの重要取組課題
● 健康・栄養
● 環境
基本的な考え方
体制
KPI
環境リスクの認識
環境法規制の遵守
グループ全体への環境活動の拡大
環境マネジメントを推進する仕組み
環境負荷の全体像
気候変動
資源循環
水資源
環境配慮型容器包装の使用促進
生物多様性
● 人権
● 供給
● 次世代育成
● 人財育成
● コーポレート・ガバナンス
方針等
第三者保証
国連グローバル・コンパクト対照表
GRIスタンダード対照表

- 神戸工場 〒657-0854　兵庫県神戸市灘区摩耶埠頭3
- 西日本市乳センター 〒657-0854　兵庫県神戸市灘区摩耶埠頭3
- 北海道保証牛乳 〒047-0264　北海道小樽市桂岡町3-8
- 十勝浦幌森永乳業 〒089-5607　北海道十勝郡浦幌町字材木町1
- 東北森永乳業秋田工場 〒018-3596　秋田県大館市岩瀬字上軽石野38-1
- 東北森永乳業仙台工場 〒983-0001　宮城県仙台市宮城野区港1-1-9
- 日本製乳 〒999-2176　山形県東置賜郡高畠町大字糠野目字高野壱694-1
- シェフォーレ 〒276-0022　千葉県八千代市上高野1355-31
- エムケーチーズ 〒252-1116　神奈川県綾瀬市落合北1-1-1
- 横浜森永乳業 〒252-1125　神奈川県綾瀬市吉岡東3-6-1
- 富士森永乳業 〒411-0933　静岡県駿東郡長泉町納米里18
- 森永北陸乳業富山工場 〒930-0916　富山県富山市向新庄町8-3-45
- 森永北陸乳業福井工場 〒910-0805　福井県福井市高木2-601
- 広島森永乳業 〒731-0211　広島県広島市安佐北区三入1-19-7
- 熊本森永乳業 〒861-8011　熊本県熊本市東区鹿帰瀬町431-1
- フリジポート熊本工場 〒861-1312　熊本県菊池市森北仁田畑1812-24
- 沖縄森永乳業 〒903-0105　沖縄県中頭郡西原町字東崎4-15

環境マネジメントを推進する仕組み

環境影響評価と環境目標

森永乳業グループでは、事業活動に関連して発生する環境負荷の大きさと、地球温暖化等の環境変動による事業活動に与えるリスクと機会を評価し、環境目標となるKPIを設定しています。
これらの取り組みについては、各事業所単位で自事業所の目標に落とし込み、「実行計画表」を用いて月毎に進捗を管理しています。

環境教育

森永乳業グループでは、ISO14001の教育として認識教育と力量教育を実施しています。認識教育はISO14001認証事業所に所属する全従業員を対象にe-ラーニングを実施しており、事業所単位での講習会を実施し環境についての知識と意識の向上をはかっています。力量教育は、環境に関連した業務に取り組む従業員が、その業務に必要な知識・技能を維持するために行っています。また、専門的な資格取得の推奨や、外部講習の受講を推進しています。

環境監査

森永乳業では、環境目標への取り組み、環境法令の遵守確認、環境教育の実施が適正に行われているかどうかを内部監査で確認しています。監査は、事業所内の監査員が行う内部監査と、他事業所の監査員によって行う統括内部監査を行っています。
独自の「内部監査員制度」を採用し、その力量によって1級から4級までの内部監査員等級を認定しており、3級以上認定者が内部監査（自事業所に対する監査）、1級認定者が統括内部監査（自身が所属しない社内事業所に対する監査）の資格を持ちます。2020年度は3級認定のためのセミナーをオンラインで11回実施し158名が修了しました。また、1～4級の認定者総数は2,885名でした。他事業所の監査員によって行う統括内部監査を、2020年度に11事業所で実施しました。

外部審査

環境マネジメントシステムは外部の審査機関による、年に1回の審査により、ISO14001適合のマルチサイト認証を受けています。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方
編集方針
会社情報
コーポレートミッション
新型コロナウイルス感染症への対応と影響
森永乳業のサステナビリティ
7つの重要取組課題
● 健康・栄養
● 環境
基本的な考え方
体制
KPI
環境リスクの認識
環境法規制の遵守
グループ全体への環境活動の拡大
環境マネジメントを推進する仕組み
環境負荷の全体像
気候変動
資源循環
水資源
環境配慮型容器包装の使用促進
生物多様性
● 人権
● 供給
● 次世代育成
● 人財育成
● コーポレート・ガバナンス
方針等
第三者保証
国連グローバル・コンパクト対照表
GRIスタンダード対照表

実績データの第三者保証と集計対象範囲

エネルギー使用量と二酸化炭素（CO_2）排出量については、第三者保証を受けています。詳細については「第三者保証」（→P.101）をご覧ください。

＊ ：第三者保証を受けた実績には「＊」を付記しています

＊＊ ：「＊＊」を付記した実績の集計対象範囲は次の通りです。森永乳業株式会社の生産事業所、北海道保証牛乳株式会社、十勝浦幌森永乳業株式会社、日本製乳株式会社、横浜森永乳業株式会社、冨士森永乳業株式会社、森永北陸乳業株式会社（福井工場、富山工場）、広島森永乳業株式会社、熊本森永乳業株式会社、沖縄森永乳業株式会社、エムケーチーズ株式会社、株式会社シェフォーレ、株式会社フリジポート（熊本工場、沖縄うるま工場）、東北森永乳業株式会社（仙台工場、秋田工場）、東洋醗酵乳株式会社（2020年5月解散）

環境負荷の全体像（マテリアルフロー）

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方
編集方針
会社情報
コーポレートミッション
新型コロナウイルス感染症への対応と影響
森永乳業のサステナビリティ
7つの重要取組課題
● 健康・栄養
● 環境
基本的な考え方
体制
KPI
環境リスクの認識
環境法規制の遵守
グループ全体への環境活動の拡大
環境マネジメントを推進する仕組み
環境負荷の全体像
気候変動
資源循環
水資源
環境配慮型容器包装の使用促進
生物多様性
● 人権
● 供給
● 次世代育成
● 人財育成
● コーポレート・ガバナンス
方針等
第三者保証
国連グローバル・コンパクト対照表
GRIスタンダード対照表

気候変動

CO_2排出量削減

森永乳業グループでは、気候変動対策としてCO_2排出量削減を進めています。佐呂間工場および別海工場において総合エネルギー効率を高める「コージェネレーションシステム」を更新し、燃料を重油から熱量当たりのCO_2排出量がより少ない液化天然ガスに転換しました。さらに2021年には盛岡工場のボイラーを都市ガスに転換したことで、直系工場の主燃料を都市ガス・天然ガスに切り替える取り組みが完了しました。また利根工場には太陽光パネルを設置し、神戸工場ではコーヒー飲料製造時に排出されるコーヒーかすなどをエネルギー化して工場内で利用するなど、自然エネルギーの利用を進めています。これらの取り組みを進めた結果、2020年度はCO_2排出量原単位※を2013年度比で14.1%削減しました（KPIに対する進捗率：176%）。

※CO_2排出量原単位：2020年度から、算出における分母を売上高に変更して開示しています。（トン-CO_2/百万円）変更にあたり、掲載年度分すべて、分母を売上高に変更して再計算を行い、開示しています。

エネルギー使用量** ※1

	2016	2017	2018	2019	2020
燃料※2（MWh）	1,243,899	1,251,455	1,215,452	1,031,964	994,813
購入したエネルギー※3（MWh）	198,174	192,080	198,663	311,267	296,321
合計（MWh）	1,442,073	1,443,535	1,414,115	1,343,231	1,291,134※4
売上高原単位（MWh/百万円）	2.433	2.438	2.423	2.273	2.213

※1 2019年度より、スコープ1とスコープ2の集計区分を変更した。工場敷地内にあるコージェネレーションシステムについて、2018年度までは燃料の使用量として集計していたが、2019年度より、電力や熱を購入する契約となっているものは、購入した電力・熱に応じたエネルギー量で集計するルールとした

※2 燃料は化石燃料使用量を示し、電力は、1,000kWh ＝ 3.6GJとして換算する。バイオマスエネルギーなどの再生可能エネルギーは含まない

※3 電力、蒸気および温水の合計を記載する

※4 2020年度の再生可能エネルギー使用量は、7,767MWhであった。再生可能エネルギーを含めた1,298,901MWhについて、第三者保証を受けた

エネルギー使用量と原単位

※売上高原単位：年間の使用量または排出量を年間売上高（百万円）で除した数値

エネルギー使用量（原油換算）**

	2016	2017	2018	2019	2020
燃料※（千kL）	115	116	113	113	109
電力※（千kL）	50	48	50	52	50
合計（千kL）	165	164	163	165	159
売上高原単位（kL/百万円）	0.278	0.277	0.279	0.279	0.272

※省エネ法に基づき算出

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方
編集方針
会社情報
コーポレートミッション
新型コロナウイルス感染症への対応と影響
森永乳業のサステナビリティ
7つの重要取組課題
● 健康・栄養
● 環境
基本的な考え方
体制
KPI
環境リスクの認識
環境法規制の遵守
グループ全体への環境活動の拡大
環境マネジメントを推進する仕組み
環境負荷の全体像
気候変動
資源循環
水資源
環境配慮型容器包装の使用促進
生物多様性
● 人権
● 供給
● 次世代育成
● 人財育成
● コーポレート・ガバナンス
方針等
第三者保証
国連グローバル・コンパクト対照表
GRIスタンダード対照表

CO_2排出量と原単位

※ISO14001を取得している直系・グループ会社の工場の数値です

※売上高原単位：年間の使用量または排出量を年間売上高（百万円）で除した数値

CO_2排出量** ※1

	2016	2017	2018	2019	2020
スコープ1※2（千トン-CO_2）	241	242	238	196	186※4
スコープ2※3（千トン-CO_2）	111	106	107	138	134※4
合計（千トン-CO_2）	353	348	345	334	319
売上高原単位（トン-CO_2/百万円）	0.595	0.588	0.591	0.565	0.547

※1 2019年度より、スコープ1とスコープ2の集計区分を変更した。工場敷地内にあるコージェネレーションシステムについて、2018年度までは燃料の使用量として集計していたが、2019年度より、電力や熱を購入する契約となっているものは、購入した電力・熱に応じたエネルギー量で集計するルールとした

※2 燃料の使用による排出量

※3 購入した電力、熱による排出量

※4 第三者保証を受けた数値は185,779トン- CO_2（スコープ1）、133,663トン-CO_2（スコープ2）

算定基準

項目	算定基準
燃料（灯油使用量、A重油使用量、軽油使用量、LPG使用量、LNG使用量、都市ガス使用量）	熱量換算係数および排出係数は、エネルギーの使用の合理化等に関する法律（省エネ法）および地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）による バウンダリについては、ISO14064-1による
エネルギー（電力、蒸気、温水）（購入）	
スコープ1、スコープ2	

CO_2排出量（スコープ3）

	2017	2018	2019	2020
スコープ3（千トン-CO_2）	2,325	2,415	2,357	2,319

※森永乳業グループに関連するカテゴリ1～7,9,11,12（10カテゴリ）を集計
1. 購入した製品・サービス／ 2. 資本財／ 3. Scope1,2に含まれない燃料およびエネルギー活動／ 4. 輸送、配送（上流）／ 5. 事業から出る廃棄物／ 6. 出張／ 7. 従業員の通勤／ 9. 輸送、配送（下流）／11. 販売した製品の使用／ 12. 販売した製品の廃棄（10、13、14、15については事業活動との関連が少なく、算定から除外。8についてはスコープ1および2に含めて集計）

バリューチェーンにおけるCO_2排出量比（2020年度）

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方
編集方針
会社情報
コーポレートミッション
新型コロナウイルス感染症への対応と影響
森永乳業のサステナビリティ
7つの重要取組課題
● 健康・栄養
● 環境
基本的な考え方
体制
KPI
環境リスクの認識
環境法規制の遵守
グループ全体への環境活動の拡大
環境マネジメントを推進する仕組み
環境負荷の全体像
気候変動
資源循環
水資源
環境配慮型容器包装の使用促進
生物多様性
● 人権
● 供給
● 次世代育成
● 人財育成
● コーポレート・ガバナンス
方針等
第三者保証
国連グローバル・コンパクト対照表
GRIスタンダード対照表

CO_2取り組み削減量

	2016	2017	2018	2019	2020
削減量（千トン-CO_2）	8.8	8.6	8.1	14.6	5.3

※設備投資と生産効率改善活動によるCO_2削減効果の積み上げ値

フロン類算定漏えい量（CO_2換算）

	2016	2017	2018	2019	2020
漏えい量（千トン-CO_2）	13.8	11.2	12.0	11.0	7.6

※フロン排出抑制法に基づき算出
GWP（地球温暖化係数）は、フロン排出抑制法で規定された数値を使用

森永乳業の全11工場すべての主燃料を天然ガス・都市ガスへ燃料転換

2021年2月に盛岡工場のボイラ燃料を重油から都市ガスに切り替えたことで、森永乳業の全11工場すべての主燃料が天然ガス・都市ガスに切り替わりました。
直近では、2018年度に佐呂間工場、2019年度に別海工場でボイラ使用燃料を重油から天然ガスに変更しており、年間のCO_2排出量を佐呂間工場で約5,000t、別海工場で約5,500t削減しました。盛岡工場の燃料転換では、さらに年間1,100tのCO_2排出量を削減する見込みです。
2020年度は、2013年度比で14.1%のCO_2排出量原単位削減を実現しました。

バイオマスの活用

森永乳業神戸工場では、コーヒー飲料製造時に排出されるコーヒーかすなどを、エネルギー化し工場内で使用しています。バイオマスエネルギー※は、カーボンニュートラルなエネルギーなので、CO_2排出量削減にも貢献しています。

※バイオマスエネルギー
植物などの非化石由来有機物を原料としたエネルギーの総称。化石燃料に代わる新たなエネルギー源として期待されています。

物流時のCO_2排出量削減

森永乳業では、輸送によって生じる環境負荷を軽減するため、複数の企業が同一の車両に相乗りする共同配送や、トラック輸送から鉄道・船舶へ輸送手段を切り替えるモーダルシフトなどの取り組みを行っています。2016年から2020年までに、トラック輸送から鉄道・船舶へ輸送手段を切り替える「モーダルシフト」を5件、配送コースの見直し・削減により、チルド日配の配送コースで30.5コースの削減を実施、他社との共同配送を12件実施しました。

その他の大気排出物

SOx、NOx、その他の重大な大気排出物

	2016	2017	2018	2019	2020
SOx（千トン）	0.22	0.22	0.17	0.08	0.05
NOx（千トン）	0.43	0.38	0.31	0.31	0.26

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方
編集方針
会社情報
コーポレートミッション
新型コロナウイルス感染症への対応と影響
森永乳業のサステナビリティ
7つの重要取組課題
● 健康・栄養
● 環境
基本的な考え方
体制
KPI
環境リスクの認識
環境法規制の遵守
グループ全体への環境活動の拡大
環境マネジメントを推進する仕組み
環境負荷の全体像
気候変動
資源循環
水資源
環境配慮型容器包装の使用促進
生物多様性
● 人権
● 供給
● 次世代育成
● 人財育成
● コーポレート・ガバナンス
方針等
第三者保証
国連グローバル・コンパクト対照表
GRIスタンダード対照表

資源循環

資源の使用

森永乳業が製品を生産するために使用した資源は以下の通りです。

原料使用量

	単位	2016	2017	2018	2019	2020
原料使用量	千トン	1,181	1,169	1,118	1,157	1,142

包材使用量　集計対象：容器包装リサイクル法の対象となる商品

	単位	2016	2017	2018	2019	2020
ガラスびん（無色）	千トン	26.3	24.3	22.0	20.2	17.7
ガラスびん（茶色）	千トン	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
ガラスびん（その他色）	千トン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
PETボトル	千トン	0.1	0.1	0.2	0.7	1.4
プラスチック製容器包装	千トン	20.5	20.3	18.8	18.2	18.4
紙製容器包装	千トン	12.0	12.3	11.8	11.5	11.6
紙パック	千トン	20.6	17.7	18.1	18.1	16.1
スチール缶（粉乳）	千トン	1.1	0.8	0.9	1.1	1.0
アルミ缶	千トン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	千トン	80.7	75.5	71.8	69.8	66.2

製品生産量

	単位	2016	2017	2018	2019	2020
製品生産量	千トン	1,452	1,420	1,360	1,349	1,276

廃棄物削減の取り組み

工場の産業廃棄物には、コーヒー・紅茶の抽出かすなどの食品廃棄物のほかに、紙くずや廃プラスチック、金属くず、排水処理場から発生する余剰汚泥などがあります。2020年度は余剰汚泥が最も多く41.8%、次いで食品廃棄物（動植物性残渣）が29.3%とこの2種類だけで全体の71.1%を占めました。

種類別産業廃棄物排出量※の割合

※ISO14001を取得している直系・グループ会社の工場の数値です。外部委託処理したものを集計

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方
編集方針
会社情報
コーポレートミッション
新型コロナウイルス感染症への対応と影響
森永乳業のサステナビリティ
7つの重要取組課題
● 健康・栄養
● 環境
基本的な考え方
体制
KPI
環境リスクの認識
環境法規制の遵守
グループ全体への環境活動の拡大
環境マネジメントを推進する仕組み
環境負荷の全体像
気候変動
資源循環
水資源
環境配慮型容器包装の使用促進
生物多様性
● 人権
● 供給
● 次世代育成
● 人財育成
● コーポレート・ガバナンス
方針等
第三者保証
国連グローバル・コンパクト対照表
GRIスタンダード対照表

産業廃棄物排出量***と原単位

※ISO14001を取得している直系・グループ会社の工場の数値です
※ 産業廃棄物排出量原単位：
年間で排出した産業廃棄物の重量（トン）を年間売上高（百万円）で除した数値
※ 2020年度は産業廃棄物排出量原単位2013年度比30.0%削減

食品廃棄物発生量****と原単位

※ISO14001を取得している直系・グループ会社の工場の数値です
※ 食品廃棄物発生量原単位：
年間で排出した食品廃棄物の重量（トン）を年間売上高（百万円）で除した数値
※ 2020年度は食品廃棄物発生量原単位2013年度比27.1%削減

廃棄物等発生量

	2016	2017	2018	2019	2020
外部委託処理					
産業廃棄物※1（千トン）	30.4	24.4	25.9	24.3	23.8
特別管理産業廃棄物（千トン）	0.0004	0.015	0.027	0.039	0.029
有価物・専ら物（千トン）	11.4	10.9	11.6	10.5	8.9
内部処理（場内処理）（千トン）	18.9	12.4	12.1	11.3	9.3
廃棄物発生量合計（千トン）	60.7	47.7	49.6	46.1	42.0
食品廃棄物（千トン）	22.4	19.1	19.2	18.6	17.7
埋立廃棄物量※2（千トン）	0.430	0.383	1.296	0.276	0.354
廃棄物発生量原単位（トン／百万円）	0.102	0.081	0.085	0.078	0.072
産業廃棄物原単位（トン／百万円）	0.051	0.041	0.044	0.041	0.041
食品廃棄物原単位（トン／百万円）	0.038	0.032	0.033	0.031	0.030

※廃棄物の集計範囲は、**の集計範囲から、株式会社フリジポート　沖縄うるま工場を除いた範囲です。
※1 産業廃棄物排出量：事業活動に伴って生じた廃棄物のうち、外部の業者で委託処理を行った廃棄物の量。有価で引き取られたものは含まない
※2 埋立廃棄物量：廃棄物のうち、埋立処理される廃棄物の量
※ 2020年度の埋立廃棄物量削減の進捗は、KPIに対して77.9%

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方
編集方針
会社情報
コーポレートミッション
新型コロナウイルス感染症への対応と影響
森永乳業のサステナビリティ
7つの重要取組課題
● 健康・栄養
● 環境
基本的な考え方
体制
KPI
環境リスクの認識
環境法規制の遵守
グループ全体への環境活動の拡大
環境マネジメントを推進する仕組み
環境負荷の全体像
気候変動
資源循環
水資源
環境配慮型容器包装の使用促進
生物多様性
● 人権
● 供給
● 次世代育成
● 人財育成
● コーポレート・ガバナンス
方針等
第三者保証
国連グローバル・コンパクト対照表
GRIスタンダード対照表

食品ロス削減

ロングライフ商品

森永乳業グループの商品の中には、栄養価が高いため、一般に腐敗しやすいとされるものでも賞味できる期間が1カ月以上あるものがあります。これらの多くは、無菌の状態で製造した、当社独自のロングライフ製法により実現された商品です。ロングライフ製法とは食品の殺菌と容器の殺菌を別々に行い無菌的な環境で包装することにより、保存料や防腐剤を使用せず、「おいしさ」と「長持ち」を両立させることができる技術です。

ロングライフ商品は賞味できる期間が長いため、計画的な使用を考えることができ、廃棄率が下がることが期待されます。また、ローリングストック※1という考え方に基づき、災害時の備蓄にも適しています。

特に「森永とうふ」シリーズは、2018年の豆腐の規格基準および食品表示基準の改正により、無菌充填豆腐の常温販売が解禁されたことにより、2019年1月に「日本初※2の常温保存可能な豆腐」として発売いたしました。また内閣官房国土強靭化推進室が発行する「国土強靭化　民間の取組事例集（令和2年）」にも選定、掲載されました。

ロングライフ製法を用いた商品の例

森永牛乳

森永牛乳プリン

絹とうふ

クリミールCZ-Hi

※1 定期的に非常食を食べて、食べたら買い足すという行為を繰り返し、常に家庭に新しい非常食を備蓄していくという方法

※2 森永乳業調べ（調査協力：株式会社ドゥ・ハウス）

Topics

常温保存可能なのむヨーグルト

日本初の常温保存可能なのむヨーグルトです。当社における長年のロングライフ商品の製造技術のノウハウにより120日間の常温保存が可能となりました。毎日使うヨーグルトを買い置き用として、通信販売で手軽に注文いただくことができます。

また栄養組成も、女性に嬉しい鉄分や食物繊維などを配合し、脂質や糖質にも配慮した設計となっています。職場やご家庭で、毎日頑張っている女性に新しい生活スタイルを提案します。

南極地域観測隊への寄贈

森永乳業は、2020年11月に南極へ向けて出国した第62次南極地域観測隊に当社製品を寄贈しました。寄贈したのは「森永とうふ」、「1日不足分の鉄分のむヨーグルト」など、常温で数カ月にわたる保存が可能なロングライフ商品です。長期保存が可能なことにより、厳しい環境でさまざまなミッションに取り組まれる隊員の皆さまの健康を微力ながらサポートさせていただきたいと考えています。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方
編集方針
会社情報
コーポレートミッション
新型コロナウイルス感染症への対応と影響
森永乳業のサステナビリティ
7つの重要取組課題
● 健康・栄養
● 環境
基本的な考え方
体制
KPI
環境リスクの認識
環境法規制の遵守
グループ全体への環境活動の拡大
環境マネジメントを推進する仕組み
環境負荷の全体像
気候変動
資源循環
水資源
環境配慮型容器包装の使用促進
生物多様性
● 人権
● 供給
● 次世代育成
● 人財育成
● コーポレート・ガバナンス
方針等
第三者保証
国連グローバル・コンパクト対照表
GRIスタンダード対照表

食品リサイクル

工場で発生する食品廃棄物の発生抑制、リサイクルを推進しています。2013年度から2020年度までの8年間で約7千トンの食品廃棄物を削減しました。その中で、当社東京工場および利根工場では、豆腐製造時に出るおからの100%を、飼料として再利用しています。

おからに乳酸菌を混ぜて発酵させることで風味良好なサイレージ飼料をつくることができ、それをグループ会社の森永酪農販売が酪農家に販売しています。この飼料を給餌している乳牛からの生乳は、当社の工場で原料として使われます。

この取り組みは2017年度、「第5回食品産業もったいない大賞」にて審査委員会委員長賞を受賞しました。

おからの飼料化サイクルのイメージ

水資源

森永乳業グループの各工場は、水資源のより効率的な活用を目指して改善を積み重ねるとともに、排水処理技術の開発・改良を重ね、水質保全に取り組んでいます。水使用量削減のため、一度使用した水を再度洗浄水として使用する用水リサイクルを行っています。

用水使用量と排水量**

※ISO14001を取得している直系・グループ会社の工場の数値です

用水使用量**

	2016	2017	2018	2019	2020
用水使用量合計（千m³）	17,637	17,098	17,337	17,399	17,664
売上高原単位（m³/百万円）	29.8	28.9	29.7	29.4	30.3

※ 2020年度は用水使用量2013年度比6.2%削減（KPIに対する進捗率68.9%）

※ 2020年度の用水内訳は、表層水（河川水）476千m³、地下水（井水、湧水）11,627千m³、自治体から購入（市水、上水、工業用水、公共原水）5,561千m³

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方
編集方針
会社情報
コーポレートミッション
新型コロナウイルス感染症への対応と影響
森永乳業のサステナビリティ
7つの重要取組課題
● 健康・栄養
● 環境
基本的な考え方
体制
KPI
環境リスクの認識
環境法規制の遵守
グループ全体への環境活動の拡大
環境マネジメントを推進する仕組み
環境負荷の全体像
気候変動
資源循環
水資源
環境配慮型容器包装の使用促進
生物多様性
● 人権
● 供給
● 次世代育成
● 人財育成
● コーポレート・ガバナンス
方針等
第三者保証
国連グローバル・コンパクト対照表
GRIスタンダード対照表

東京多摩工場の水管理

森永乳業グループの工場では、自治体の公共水道や工業用水だけでなく、井戸水（地下水）も利用しています。適切なメンテナンスを行い、井戸を維持することで、商品を安定して供給することができます。

多摩サイト（東京多摩工場、大和工場、東日本市乳センターなどからなる事業所）では9本の井戸がありますが、2020年に3号井戸の取水を止め、大規模なメンテナンスを行いました。

1950年代に都市部で汲み上げ過ぎによる地盤沈下があったように、井戸水を使う上では、取水する帯水層の水位が安定しているか、確認することが重要です。2020年には外部委託による水源の調査を行い、地下水の水源となる帯水層（工場周辺の地下に広がる東久留米層）では、水位が回復しているとの報告を受けています。また、工場では商品の製造や製造設備の洗浄など、きれいな水を大量に必要とするため、高品質の商品を安定的に供給するには地下水の水質も重要です。上記の調査では水質面についても、きれいでおいしい地下水であることを確認しました。

2021年より他工場の閉鎖によって製造品目が増えるため、東京多摩工場では排水の量が増え、また排水処理の負荷も増えると見込まれました。そのため、製造設備の工事と並行して排水処理設備の強化をグループ会社の森永エンジニアリングと協力して行いました。

排水処理の高度化

使用後の排水をきれいにして自然に還すために、工場に排水処理施設を備えています。排水処理場では「活性汚泥」と呼ばれる微生物が排水の汚れである栄養成分を食べて取り除き、その活性汚泥を重力で分離した処理水を放流しています。一部の工場では、活性汚泥の分離に膜を使用するMBR（膜分離活性汚泥法）を導入しています。膜分離のため、これまで以上に清澄度が高い処理水が得られています。

グループ会社の森永エンジニアリングでは、同社が開発した排水処理設備を自社グループのみならず、300社近くのお取引先さまにもご活用いただいています。

噴流式酸素供給装置（フォームジェット）により、酸素ガスをファインバブル化することで、高効率酸素供給が可能となる装置です。排水中にファインバブルを溶解させることにより、さまざまな効果を得ることが期待されます。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方
編集方針
会社情報
コーポレートミッション
新型コロナウイルス感染症への対応と影響
森永乳業のサステナビリティ
7つの重要取組課題
● 健康・栄養
● 環境
基本的な考え方
体制
KPI
環境リスクの認識
環境法規制の遵守
グループ全体への環境活動の拡大
環境マネジメントを推進する仕組み
環境負荷の全体像
気候変動
資源循環
水資源
環境配慮型容器包装の使用促進
生物多様性
● 人権
● 供給
● 次世代育成
● 人財育成
● コーポレート・ガバナンス
方針等
第三者保証
国連グローバル・コンパクト対照表
GRIスタンダード対照表

環境配慮型容器包装の使用促進

プラスチック容器への対応

森永乳業グループでは多くのプラスチック容器を使用しています。プラスチック容器による海洋などの環境汚染については重要な社会課題と捉えていますが、その一方でプラスチック容器は賞味期限の延長や使用時の利便性に寄与することから、環境汚染を極力抑えつつ、機能を最大限に利用する賢い使い方をすることが肝要と考えています。

その基本的な考え方として森永乳業では、環境に配慮した容器包装の設計ガイドライン「エコパッケージガイド」を制定しています。このガイドラインは、商品の企画・開発段階から3R（リデュース・リユース・リサイクル）、安全性と使いやすさに配慮した容器包装の開発・改良の基となっています。2005年に制定したガイドを2018年に全面改定するとともに、容器包装環境確認書※により、新製品発売に際しJIS Z0130-2（包装システムの最適化）に基づいたチェックを実施することとしました。これにより、容器包装の各パーツの役割や削減する余地はないかなど、適切な環境配慮について確認しています。

2018年度より、社内でプラスチック容器問題への対策を検討する「CSR委員会プラスチック対策分科会（現在は独立したプラスチック対策プロジェクト）」を発足させ、プラスチック容器の使用量削減やバイオマスプラスチックの採用などの検討を進めています。

社外との協力体制として、プラスチック問題への取り組みをより効果的に進めるため、各種業界団体に加え経済産業省が立ちあげた「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス（CLOMA）」や環境省の「プラスチック・スマート」フォーラムにも参加しています。

当社の環境に配慮した容器包装の改善事例については、当社のウェブサイトで公開している他、食品産業センター、日本乳業協会、全国清涼飲料連合会などの加盟団体の事例集や農林水産省の「プラスチック資源循環アクション宣言」、環境省の「プラスチック・スマート」、経団連の「SDGsに資するプラスチック関連取組事例集」へも情報提供を行っています。

中期経営計画においては「容器包装リサイクル法対象プラスチック容器包装の重量：2013年度比10%削減」することを目標として掲げており、2020年度は15.4%削減しました（KPIに対する進捗率：154%）。

※容器包装環境確認書
商品の開発に際し、容器包装の環境配慮設計に関する森永乳業独自のチェックリストのこと。「廃棄時の減容化」や「包装形態の単純化・簡素化」など11項目をチェックする。すべてにチェックがつかない場合はその理由、課題の共有を行い、次回の開発に活かす仕組みとして機能させています。

プラスチック製容器包装

※ 2020年度KPIに対する進捗率は154%

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方
編集方針
会社情報
コーポレートミッション
新型コロナウイルス感染症への対応と影響
森永乳業のサステナビリティ
7つの重要取組課題
● 健康・栄養
● 環境
基本的な考え方
体制
KPI
環境リスクの認識
環境法規制の遵守
グループ全体への環境活動の拡大
環境マネジメントを推進する仕組み
環境負荷の全体像
気候変動
資源循環
水資源
環境配慮型容器包装の使用促進
生物多様性
● 人権
● 供給
● 次世代育成
● 人財育成
● コーポレート・ガバナンス
方針等
第三者保証
国連グローバル・コンパクト対照表
GRIスタンダード対照表

3Rに配慮した容器包装

森永乳業は3Rに配慮した容器包装の設計・改良を推進しています。2019年は、「ビヒダスヨーグルト」の4連パックを輸送する段ボールの形状を見直し、段ボール使用量を約8%削減しました。

お客さまのご意見を反映

「お客さま相談室」に寄せられた貴重なご意見やご指摘を活かした多数の改良事例は、当社ウェブサイトでもご紹介しています。

WEB お客さまの声を活かしました
▶https://www.morinagamilk.co.jp/customer/voice/

生物多様性

森永乳業は、2018年3月、RSPO※1に加盟しました。また、持続可能なパーム油のための日本のネットワーク「JaSPON」にも参画し、持続可能なパーム油の調達と消費に向けて取り組んでいます。パーム油は、生産の際に大規模な森林伐採を行うため、生物多様性の喪失など自然環境面への影響、さらには農場での労働上の人権問題が発生する可能性も指摘されていました。
森永乳業は、2018年以降、ブックアンドクレーム※2でのパーム油の購入を推進し、2019年度および2020年度にはブックアンドクレームでの100%カバーを達成しました。今後は2028年度達成を目標にマスバランス※3への切り替えに取り組みます。

コーヒー、紅茶などの飲料に関しては、現在「マウントレーニア ディープエスプレッソ」など一部の商品にレインフォレスト・アライアンス認証※4のコーヒー豆、紅茶葉を使用しています。
紙に関しては、2020年度までにアイスクリーム商品の紙スリーブおよび包装箱は、すべてFSC®認証紙※5に切り替えています。また、飲料や豆腐に使っているアルミ付き紙容器でも、すべてFSC®認証紙に切り替わっています。

※1 RSPO
Roundtable on Sustainable Palm Oil（持続可能なパーム油のための円卓会議）。パーム油の生産が、熱帯林の保全や、そこに生息する生物の多様性、森林に依存する人々の暮らしに深刻な悪影響を及ぼすことのないよう、一定の基準を満たす農場で生産されたパーム油およびパーム油利用商品を認証しています。

※2 ブックアンドクレーム
パーム油の生産者が、認証パーム油の生産量に基づいて認証クレジット（証書）を発行します。エンドユーザーはその認証クレジットを購入することで、認証パーム油の生産者を支援する仕組みです。

※3 マスバランス
パーム油認証農園からの認証パーム油が流通過程で他の非認証油と混合される認証モデルです。非認証油も含んではいますが、購入した認証農園とその数量が保証されています。

※4 レインフォレスト・アライアンス認証
レインフォレスト・アライアンス認証農園は人と自然のより良い未来のため、森林や生態系の保護、土壌や水資源の保全、農場労働者の労働環境、生活や人権の向上などに取り組み、厳しい基準を満たしています。

※5 FSC®認証
森を守る国際的な認証制度。環境保全の視点から適切で、社会的な利益にかない、経済的にも持続可能な森林管理のもとで生産された森林資源や、その他適切な森林資源の使用につながる原材料を使用していることを、FSC®（Forest Stewardship Council：森林管理協議会）の基準で、第三者の認証機関が審査・認証したものにだけつけることができます。

REPORT ▶詳細はP.69「RSPO認証パーム油の使用拡大」、P.70「環境や人権に配慮した調達」参照